

## 笑顔があふれた特別な修学旅行

“戻り梅雨”，梅雨が明けた後に再び梅雨のような状態に戻るのだそうですが、今週はまさにジメジメした気候が続いています。今週月曜日にメールをさせていただきましたが、新型コロナウイルス感染者数は、急激な増加の傾向が見られます。甲斐市内でも急激な増加が見られ、メールにもありますように、油断せずに、感染対策をお願いしたいと思います。

さて、7月6日（水）～8日（金）まで、3年生は延期になっていました奈良・京都への修学旅行を実施することができました。4月に、3年生のみなさんには、辛い思いをさせてしまい、そのことがずっと私の心の中に、3年生の先生方の心の中にもずっとそれが残っていたと思います。このように素晴らしい修学旅行にできたのは、前を向いて、3年生のみなさんが油断せずに行ってきた感染対策と保護者の皆様方のご協力のお陰だと改めて感謝しています。また、3学年の先生方のこれまでの準備や養護の中野先生の尽力、それから現地での看護師さんの手配や添乗員さんの増員など旅行会社の方々の配慮にも感謝したいと思います。

この修学旅行を通して、改めて、3年生のみなさんは、本当に大きく成長したなと実感しています。修学旅行の延期に際して、みなさんにはこれまで様々な思いがあったと思いますが、誰も責めることなく、その後の学校生活を全力で頑張っていました。日々の学校生活を大切に、真剣に授業に向かい、テストにも懸命に取り組んでいました。また、部活動も最後の中巨摩総体がありましたが、1、2年生を引っ張り、頑張る姿、輝いている姿を、私はたくさん見ることができました。みなさんのそういう姿から、辛くても、しんどくても、前を向いて進むことの大切さや仲間を思いやる気持ちの大切さを改めて教えてもらいました。

様々な方々の思いと保護者の皆様方にも協力いただき、希望する生徒全員で修学旅行ができたこと、そして旅行中も素晴らしい集団行動力で、発熱者や体調不良者など、途中で修学旅行をあきらめなければならない人などがなく、全行程予定通りに修学旅行ができたこと、本当に素晴らしいと思いました。また、みなさんの思いが通じたのか、台風の影響もなく、やや暑い日が続きましたが、天気にも恵まれ、修学旅行中は素晴らしい出会いや発見があったことと思います。

私は、特に、修学旅行2日目の夜に体験と見学に行かせてもらった河村能舞台の代表である河村純子さんの話がとても印象に残っています。河村さんもコロナに苦しめられ、キャンセルがたくさんでて、失ったものがたくさんあったと話してくれました。でも、得たもの、学んだものもたくさんあったと話していました。やっぱり自分はお客さんの前で伝えていくことが好きであることに、改めて気づいたと言っていました。また、河村さんは、ただ嘆いているだけでなく、下を向いているだけでなく、自ら英語を学びはじめたりと新しいことに挑戦し、新しい自分を探そうと前を向いて頑張ることで、新しい道が、可能性が、人との出会いがさらに広がったと話してくれました。

私は、河村さんのお話から、どんなきびしい現実に直面しても、あきらめずに、絶望せずに、今できることを



精一杯頑張っていくことで、未来は変えることができることを改めて学ばせてもらいました。『雨の後には美しい虹がかかる』、私は、この言葉が修学旅行中に頭の中に浮かんでいました。ただ何もしないで立ち止まっても、何も変わらないかも知れません。苦しくても、今、自分がすべきことに全力で頑張ることが大切で、そうしていくことが、自らの未来を、新しい自分をつくっていくことにつながると思います。

これから、部活動では県総体やコンクール、関東大会を控え、また最後の緑水祭に向けて、全校を引っ張り、頑張っていかなければならない3年生、また受験生でもある3年生、みなさんならこれからも乗り越えていけるように思います。さらなる活躍を期待しています。

#### <生徒の感想>

☆3日間の修学旅行で一番印象に残ったことは2日目の自主見学です。そのなかでも心に残ったのは伏見稲荷大社です。標高233mですが、山頂まで参道に続く真っ赤な鳥居にとっても感動しました。仲間と登り切ったときの達成感が素晴らしかったです。(3年1組 今井涼太さん)

☆印象に残ったことは東大寺の大仏が、自分が想像していたよりもすごく大きくてとてもビックリしました。3日目の清水の舞台から見た景色も感動しました。この修学旅行は素晴らしい思い出になりました。(3年2組 田中蒼空さん)

☆いろいろなお寺や景色や仏像に感動しました。2日目の自主見学の時、僕たちを案内してくれたタクシーの運転手さんが「ノリがいいね」とか「しっかり話を聞いてくれるね」と言ってくれたことがうれしかったです。この3日間は一番楽しい思い出になりました。(3年3組 サルセド・ジャンポールさん)

## 生き方を学ぶキャリア教育

7月7日(木)と7月14日(木)に2年生を対象に、キャリア教育の一環として、お二人の方にお越しいただき講演をしていただきました。キャリア教育は、「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」と定義されています。つまり、一人一人の発達というものを、自己と、働くことを結びつけながら歩いていくことであると考え、それを支援するのがキャリア教育です。そこで、様々な職業の大人とふれあい、主体的に学ぶ意欲を育てていくことが大切です。今回は、7日にラジオパーソナリティとして活躍されている小松かおりさん(FMふじやま、NPO日本プライダル協会山梨支部長)14日には、役者としてテレビや舞台上で活躍されている白須慶子さん(NHK朝ドラ「半分青い」やフジテレビ「やんごとなき一族」等多数のテレビ番組に出演)にお越しいただき、学ぶ機会をつくることができました。お二人とも山梨県出身であり、地元を愛し、ふるさとである山梨の子どもたちの学びになるのであればとお忙しい中、来校していただきました。お二人の話から、自分の夢に向かって前向きに進んでいくことの大切さや自立するために必要な力について、なりたい自分になるために努力を続けていくことの大切さなどについて考える、素晴らしい機会となりました。



#### <生徒の感想>

☆私には、小さい頃決めた将来の夢があり、それに向かって自分ができる事に努力を続けています。しかし、当然のようにうまくいかないこともたくさんあって、本音を言うと、最近はおきらめようかと迷っていましたが、学生の頃に国語の先生にほめてもらった一言により、一生懸命に前向きに自分の夢へと進んでいく小松さんの話を聞いて、私も「こんなことでくじけてはだめだな」と思いました。そして、高校2年生の時に辛いことがあったにもかかわらず、夢を見つけてポジティブに頑張る小松さんがとてもかっこいいと思い、自分も小松さんを見習って頑張りたいと思いました。(2年3組 田 暁睿さん)

☆はじめに見せてくださった1シーンは、短い時間だったけれど、とても気持ちが伝わってくる演技で、本当にすごいと思えました。私は、まだ自信を持って言える好きなことがなかったけれど、白須さんが言っていた「好きなことを見つけるために挑戦してみる」という言葉を聞き、好きなことや将来の夢を見つけるために、この言葉を大切にして、自分が「できそうだ」「やりたい」と思ったことには、挑戦していこうと思えました。私は役者さんにあこがれていたため、今回、白須さんの話を聞くことができ、とてもうれしく「役者さんって楽しそうだな」と思いました。(2年1組 深澤莓花さん)